

2014年(平成26年)
9月28日(日曜日)

THE YOMIURI SHIMBUN

読新新聞



TOP インタビュー トップビュロー

製鉄や原子力などの産業機械の設計、製造を手がけてきた「S.P.エンジニアリング」が、健康・美容分野に参入し、注目されている。新規事業や今後の成長戦略について泉富栄社長(60)に聞いた。

(聞き手・高松秀明)

—新規事業の狙いは。

「製鉄と原子力関連が事業の2本柱で、取引の約9割を占めている。以前から依存の高さに危機感を持っていた。リーマンショックで製鉄業界からの発注が減り、福島第一原発事故で原子炉の定期点検などの仕事を失った。売りに上

S.P.エンジニアリング

泉 富栄 社長



1954年、新潟県生まれ。同県立新津工業高校を卒業後、73年に日立製作所に入社。日立市内の工場ですべての設計を担当した。80年にS.P.エンジニアリング入社、92年に取締役、2002年から社長を務める。趣味は旅行やゴルフ、野球など。性格は「前向き思考で、新しいことにチャレンジすることが好き」。

培った技術、新分野で応用

「水素水の生成ポット『ビスポ』は、今年2月から量産品の販売を始めた。持ち運びできる大きさで、電気を使わないで2〜3分で水素水を作れる。ネットや家電量販店などで1万本以上が売れた」

—売れ行きはどうか。

「水素水の生成ポット『ビスポ』は、今年2月から量産品の販売を始めた。持ち運びできる大きさで、電気を使わないで2〜3分で水素水を作れる。ネットや家電量販店などで1万本以上が売れた」

—他の製品はどうか。

「環境分野でも、産業機械

に使われるオイルを再利用できるようにする濾過再生装置や、原子力施設で発生する放射性廃棄物を効率よく保管するための減容処理装置なども売り込んでいく」

—今後の展望は。

「設計、開発に特化し、製作は協力工場に依頼するファブレス形態を取っている。新製品の開発では企画段階から力のあるパートナー企業と一体となって取り組めるのが強みだ。ビスポも東洋技研工業(日立市)、NTCドリームマックス(東京都)と共同で行った。柱となっている製鉄機械や原子力機器を伸ばしつつ、パートナー企業や大学、研究機関などとの連携を深めて『ものづくり力』を高めていく」

1974年、原子力関連をメインに産業機械の設計や製作などを行う「エンジニアリング事業」会社として設立。84年から製鉄機械の事業を始めた。従業員35人、2014年6月期の売上高は約8億円。社名の「S.P.」は「システム&プロジェクト」の略称。「技術を構築する会社」という意味を込めている。